

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第1部門第2区分
【発行日】平成17年12月8日(2005.12.8)

【公表番号】特表2002-500533(P2002-500533A)
【公表日】平成14年1月8日(2002.1.8)
【出願番号】特願平10-550641
【国際特許分類第7版】
A 6 1 F 2/06
【FI】
A 6 1 F 2/06

【手続補正書】
【提出日】平成17年5月23日(2005.5.23)
【手続補正1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】補正の内容のとおり
【補正方法】変更
【補正の内容】



自発手続補正書

平成17年5月23日

特許庁長官 殿



1. 事件の表示

平成10年特許願第550641号

~~(PCT/US98/10415)~~

2. 補正をする者

住 所 バルバドス国 セントマイケル ベイ ストリート
ブッシュ ヒル ザ コーポレイト センター
氏 名 ボストン サイエンティフィック リミテッド
(名 称)

3. 代 理 人

住 所 岐阜市大宮町2丁目12番地の1
TEL 058-265-1810 (代表)
ファックス専用 058-266-1339
氏 名 6875 弁理士 恩田 博宣



4. 補正により増加する請求項の数 1



5. 補正対象書類名

請求の範囲

6. 補正対象項目名

請求の範囲

7. 補正の内容

(1) 請求の範囲を別紙のとおり補正する。

「請求の範囲

1. 長さに沿って長さ半径を有するステントにおいて、
管状構造を備え、該構造は放射方向において外方に働く力を有し、該力は長さに沿って変わり、管状構造は、第1の末端領域、中央領域、第2の末端領域を有し、該力は、第1の末端領域において最小で、第1の末端領域よりも中央領域で強く、中央領域よりも第2の末端領域で強いことを特徴とするステント。
2. 長さに沿って長さ半径を有するステントにおいて、
管状構造を備え、該構造は放射状外向き力を発揮する手段を有し、該力は長さに沿って変わり、管状構造は複数の交差要素を有し、交差要素はある量の材料を有する接続部で交差し、接続部の材料の量は両末端領域よりも中央領域で多いことを特徴とするステント。
3. 長さ非均一の外側直径を有するステントにおいて、
形状記憶材料から形成される管状構造を備えるとともに、中央領域、第1の末端領域、第2の末端領域を有し、前記外側直径は、両末端領域におけるよりも中央領域でより大きいことを特徴とするステント。
4. 長さを有するとともに、非拡張状態から拡張状態に拡張可能であり、非拡張時の半径が前記長さに沿って一定である、形状記憶材料で形成されるステントにおいて、
該ステントは管状構造を備え、該構造は放射方向において外方に働く力を有し、該力は長さに沿って変わり、管状構造は、第1の末端領域、中央領域、第2の末端領域を有し、該力は、第1の末端領域において最小で、第1の末端領域よりも中央領域で強く、中央領域よりも第2の末端領域で強いことを特徴とするステント。
5. ニッケルチタン合金で形成されることを特徴とする請求項1または2に記

載のステント。

6. 前記構造が複数のジグザグ形状部を備え、近接するジグザグ形状部同士は、相互連結要素により連結されることを特徴とする請求項1乃至4のうちいずれか一項に記載のステント。

7. 前記構造は複数の交差要素を有し、交差要素はある量の材料を有する接続部で交差し、接続部の材料の量は中央領域よりも第2の末端領域で多く、第1の末端領域よりも中央領域で多いことを特徴とする請求項1または4に記載のステント。

8. 前記ステントの密度がステントの長さに沿って変化することを特徴とする請求項1乃至4のうちいずれか一項に記載のステント。」